

社会を明るくする運動

中学生の部最優秀作文

私にとってのボランティア再発見

菊池南中学校3年 佐藤響乃さん



私は中学生になるまで、ボランティア活動についてよく考えることはありませんでした。ボランティア活動をしている人に対しての評価も「偽善者」「自己満足」「善人アピール」などというものが多く、ボランティア活動とはそういうものなんだと思い込んでいました。当然「ボランティア」という言葉に良い印象があるわけもなく、マイナスイメージを持っていたのです。しかし、中学生になって、ボランティア活動についてよく考える出来事がありました。

まず最初の出来事は、「熊本大地震」です。震災時のボランティアは、炊き出し、募金、支援物資、家屋の掃除など数えだしたらキリがないくらいにありました。その中でも特に、私の身近にあったものが「支援物資」でした。県外から届けられたたくさんのお水やお毛布などの物資。震災の次の日から続々と届けられるそれらにとても驚きました。地域の体育館いっぱい、更には部活動にまでたくさんのお物資が届きました。こんな膨大な量が集まること、誰かが誰かを助けるために働いてくれていることがとても素晴らしいことだと思いました。

ボランティアを受けるだけでなくボランティアを行う側からも考えさせられました。実は震災時に、私の母は水の配給を行っていました。私の家は震災の被害をほとんど受けていなかったのですが、知人の家が水が止まっていると聞いて、その地域に水を配給したのです。運搬用の黄色い貯水タン

クを借りてトラックで水を運ぶ母。少なくとも私たちも被害者なのに、他人のために即行動する母をまじかに見て人の役に立つために何かしよう、何ができるだろうかと考えることのすばらしさを感じました。思ったことを行動に移すことが大切だということを感じました。困っている人がいるから、今自分にできることをちょっとだけ手助けする。どんなに考えていても行動に移していないと意味がない。大量の支援物資や、募金なども行動してくれた人たちによって成り立っていました。勝手な思い込みで、マイナスの言葉を向けることの愚かさを考えさせられました。

二つ目の出来事は、私自身が参加したボランティア活動です。私は部活動の一環として菊池市主催の「城山の日」の清掃活動に参加しました。正直最初は「めんどくさいなあ」と思っていました。でも活動していくうちに「もっときれいにしよう」とやる気もでてきました。終了した時の達成感は何とも言えず、ただただやり遂げた充実感が沸き上がってきたのです。ボランティア活動は、行動していくうちにハマっていくものなのかなと感じました。

このように私には、ボランティア活動について多面的に考える機会がありました。ボランティアは、必ず誰かの役に立つし、行ってみると決して嫌いになる活動ではありません。また、どんな理由やきっかけであれ、行動すること自体がすごいことです。

何かできないかと思うだけでなく、行動に移していける人が増えれば、もっと温かい気持ちで周りの人となることができるようではないでしょうか。ひょっとしたら、世界の様々な問題も解決できる社会になると思います。もし今度災害が起きた時には、私はすぐに自分にできることを精一杯頑張りたいです。何もしない自分のことを棚に上げて、ボランティア活動をしている人たちをマイナスイメージでとらえるような人がいたら、私の考えているボランティアについて話し、相手にも考え方を覚えてもらいたいと考えます。誰かのために行動できることの素晴らしさを伝えたいです。

自分がボランティアを受ける側に立って、又身近にボランティア活動をする母を見て、更に自分がボランティアを行って、私はボランティアについて再発見ができました。皆さんもボランティアについて改めて考えてみませんか。

全く知らない人でも、あいさつをすれば知り合いになれると思います。私は、笑顔でのあいさつは大事だ、と思っています。話をするのが苦手な人でも、あいさつならできると思います。あいさつはコミュニケーションの一つだと思うので、これからも続けたいです。

あいさつで知り合いになって、犯罪や非行ができないような環境をつくり、みんなが安心して過ごせる明るい社会になればいいな、と思います。 ※作文は一部抜粋